きらら としょかん

# 新屋図書館だより

発行：秋田市立新屋図書館
秋田市新屋大川町 12－26　☎ 018－828－4215
https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848

No. 259
R5. 9月号

## きららとしょかん新屋図書館　市民文化講座
## 「備えよう！日頃から家庭でできる防災について」

いざという時に役立つ災害対策の準備や、防災について学んでみませんか？

日時:9月18日(月･祝)10:30～11:30

講師:秋田市防災安全対策課　職員

場所:新屋図書館　研修室

定員:先着20名

申込み:9月2日(土) 午前10時から電話･カウンターで申し込み受付開始

## 「世界アルツハイマー月間関連展」

9月は世界アルツハイマー月間です。

認知症やアルツハイマーに関する本の展示･貸出しを行います。

期間:9月20日(水) ～10月1日(日)　場所:新屋図書館　エントランス

## 9月のおはなし会

**9月2日（土）14：00～14：30**

**いろいろ　おやさい**

**～絵本・手遊び～**

**（おはなしのへや･幼児～小学生）**

**9月12日（火）10：30～10：50**

**のせてのせて**

**～絵本・ふれあい遊び～**

**（おはなしのへや･赤ちゃん～）**

# 新　刊　案　内

## ランプシェード「こどもとしょかん」連載エッセイ１９７９～２０２１

松岡　享子／著
東京子ども図書館　　請求記号　019．5　（　図書館　）

　東京子ども図書館の名誉理事を務めていた著者は、子どもと本の幸せな出会いを願い活動を続けてきました。本の力・子どもへの想い・文学作家との交流など内容は多岐にわたり、生前の著者の思いに触れることができます。子どもの本の世界に関わる人にとっては、道標にもなる１冊です。

## ものがたり　池田修三の木版画の世界

にかほ市象潟郷土資料館　　請求記号　A733　（　版画　）

　池田修三は、秋田県象潟町（現にかほ市）出身の木版画家。子どもたちや秋田の風景を題材に、生涯でおよそ２０００点もの作品を発表しています。本書は、生誕１００周年を記念し、日記などに書かれた池田修三自身の言葉を通して、その版画と人生を振り返ります。

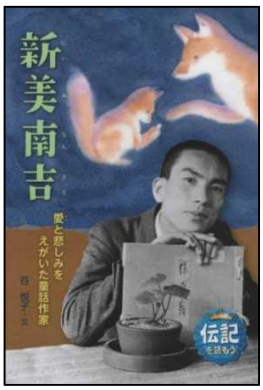
## 師匠はつらいよ　藤井聡太のいる日常

杉本　昌隆／著
文藝春秋　請求記号　796．04　（　将棋　）

　最強の弟子・藤井聡太七冠とのエピソードをユーモアたっぷりに紹介。出会いから初勝利、おやつ事情、そして藤井七冠の３つの武器とは？そのほか心温まる（？）将棋界あるあるも満載。まるで棋士たちの日常を覗いているような感覚になるエッセイ集です。

## 新美南吉　愛と悲しみをえがいた童話作家

谷　悦子／文
あかね書房　　請求記号　91　タ　（　日本の児童文学　）




　「ごんぎつね」などで知られる童話作家の新美南吉は、若くして結核により逝去しました。彼は自らの育った自然豊かな環境や東京での下宿生活から、悲しみやさびしさというメッセージを作品に込めて執筆しました。彼の生涯をこの一冊で追いかけてみてはいかがでしょう。

## 図書館員（鎌田　友理）のおすすめ本

| | |
|---|---|
| 書　　名 | なぜ、穴を見つけるとのぞきたくなるの？<br>子どもの質問に学者が本気でこたえてみた。 |
| 著 者 名 | 石川　幹人／著 |
| 出 版 社 | 朝日新聞出版 |
| 所　　蔵 | 新屋、明徳 |
| | 請求記号　０３　（　科学　） |

世界には、「よく考えると…どうして？」と思うことがたくさんあります。普段の生活でも、「あれ？」と心に引っかかることがたびたびあるはずなのに、そのまま忘れてしまったり、なんとなく自分の中で説明をつけて勝手に納得してしまったり…はっきりとした“疑問”にもならない、もやもやとした“？”と向き合う時間が、最近少なくなったように感じます。

そんなときに手に取ったのがこちらの本。大人よりもはるかに敏感に“？”を感じとる子どもたちから寄せられた質問に、認知心理学を研究している著者の石川教授が、科学的な観点から回答をしています。

題名になっている質問への回答は、第４章「せいかつのギモン」に収録。気になる穴をのぞきこむように、この本を開いてみませんか？

## 図書館員（内藤　麻由）のおすすめ本

| | |
|---|---|
| 書　　名 | 方向音痴って、なおるんですか？ |
| 著 者 名 | 吉玉　サキ／著 |
| 出 版 社 | 交通新聞社 |
| 所　　蔵 | 新屋、明徳、土崎 |
| | 請求記号　４４８．９　（　地図　） |

「Google マップを見るけれど、最初の一歩目は勘。とりあえず歩いてみて、アプリ上の現在地マークが思い通りに進んだら『こっちでいいんだな』と安心する。」「地図をくるくる回してしまう。進行方向を上にしていないと、どっちに曲がっていいか分からない。」私には、とっても身に覚えがある「方向音痴あるある」。皆さんはどうでしょうか。

本書の著者は、「目的地に行こうとしたら、なぜか元いた場所に戻っていた。」というエピソードを持つ、極度の方向音痴。そんな著者が、認知科学者や地図研究家など、各界の専門家を訪ね、迷わないコツを伝授してもらいます。アプリと紙の地図を使い比べたり、何も見ずに札幌の街を歩いたり、使いやすいアプリを調べたり…。

方向音痴の克服を目指し、試行錯誤を重ねた毎日を綴るエッセイです。

## 記事になったお酒の話題あれこれ…凍眠生酒…

フレッシュな味わいや瑞々しい口当たりを楽しむ「搾りたての生酒」。通常は、蔵本に足を運ばないと飲むことが出来ません。ところが、搾りたての生酒を冬眠するように凍らせる液体凍結機の開発により、いつでもどこでも味わえるようになりました！普通、生酒を冷凍してしまうと水とアルコール分が分離し、味の劣化や瓶の破裂につながります。しかし、この凍結機では、一般的な急速冷凍よりも更に早く凍らせ、瓶の破裂や風味の劣化を大幅に低減しているとのこと。

この画期的な「凍眠生酒」の誕生により、鮮度を保ったまま海外へ輸出する、１００年後の子孫に生酒を残すなど、日本酒の可能性が広がっているようです。暑い時期は半解凍で「みぞれ酒」として楽しむことも出来るという「凍眠生酒」。ぜひ味わってみたいものです！

新屋は、醸造の街。
新屋図書館には、酒の資料コーナーがあります。

【参考資料】
月刊たる
２０２３年8月号

## 今、あなたへ…作家を想う…

すこしずつではありますが、暑さも弱まり、夏真っ盛りの時期よりは落ち着いて本を開ける時期となりつつあります。

ことしの秋は、“作品”だけでなく、鋭い感性と巧みな技術で読者を楽しませてくれる“作家”自身にも思いを馳せてみませんか？

たとえば、９月１８日に“露月忌”がある秋田出身の俳人・石井露月と、９月１９日に“子規忌”がある正岡子規の師弟関係が描かれる**『小説露月と子規』（工藤　一紘／著、秋田魁新報社）**。

９月２１日に“賢治忌”がある宮沢賢治について、家族や友人など、彼に影響を与えた周囲の人々との関係を丁寧に追った**『満天の蒼い森』（菅原　千恵子／著、角川書店）**。父・政次郎の目を通して「息子としての賢治」を描く**『銀河鉄道の父』（門井　慶喜／著、講談社）**…などなど、作家自身の生涯を小説として読んでみれば、名作をまた違う視点で読み込むきっかけになるかもしれません。

## 図書館員のひとりごと

日本と暦といえば、カレンダーに記載されていることも多い二十四節気がおなじみですが、季節にさらに細かく名前をつけた“七十二候”というものもあるそうです。９月であれば、「禾乃登（こくもつすなわちみのる）」から「蟄虫坏戸（むしかくれてとをふさぐ）」までの六つの候に分けられます。どれも秋らしい光景が目に浮かぶような美しい名前がつけられているのですが…気象庁の予報によれば、今年は「１０月までは平年より高い気温が続く」そうで、暦どおりの光景はなかなか見られないかもしれません。そろそろ涼しさの中で気持ちよく過ごしたいところなのですが…　（鎌田）

父の実家で柴犬を飼っています。先日１１歳（人間だと６０歳くらい）を迎えました。周りの人間から「かわいい」を一身に浴び育ったので自分の名前は「かわいい」だと思っている可能性があります（たぶん）（いや絶対）

あまりにかわいすぎるので会うたび写真を撮り暇さえあれば見返しているのですが、楽しい？嬉しい？そんな笑顔の写真がとても多いです。調べてみたところ犬が笑顔になる理由のひとつに「飼い主のマネをしている」説があるらしく･･･えっ、私が笑顔で話すから笑顔を返してくれている･･･ってコト！？あまりに愛おしくてちょっと泣けちゃいました。　（鈴木）